

2018年7月11日(水) 第5限

指導者

場 所 6年教室

1 題材 「四行作文～自分・友だち再発見～」

2 指導目標

- ・子どもたちが、自ら書きたいという意欲をもって、取り組むことができる。(国語への関心・意欲・態度)
- ・起承転結を意識して、文章を書くことができる。(書くこと)
- ・話し手の話に耳を傾け、互いの意見を聞き合って考えを深めたり、広めたりすることができる。(聞くこと)
- ・四行作文で自分の思いや考えを話し、聞き手は、それぞれの立場から考えを伝えることができる。(話すこと)
- ・「こんなことに困っている」という思いを、自分の言葉で書き、素直に伝えることができる。また、「聞いてもらって良かった」という思いをもつことができる。(A)

3 指導にあたって

(1) 児童について

〔読む〕

〔書く〕

〔聞く・話す〕

A とまわりの児童の実態

このように、子どもたちは、自分や友だちを知ることの大切さ、本音を言い合うことの大切さを実感しているものの、友だちの悲しいことや悩んでいること、言いたいと思っても言えないことなど、心の奥にあるものを伝えることができず、まだまだ本音で話せる仲間にはなれていない。四行作文を通して、まずは、クラスの児童一人ひとりや、自分のことを見つめ直すきっかけにしたい。

(2) 単元について

本学級は、書くことについて抵抗感を示す児童が多い。「作文を書きましょう。」と指示をすると、「えっ」と驚きと、ため息のような声を上げる。しばらくすると、「書くことがない。」「長く書けない。」と書くことを拒む発言をすることが度々あった。長い文を書くのがよい作文、感動的な出来事を書くのがよい作文と思い込んでい

る児童たちであった。その意識を変えるために、四行作文に取り組む。四行作文は、起承転結の原型であり、短いので話題を変えて文を作ることに抵抗感が少なくなる。

以下のように条件を与えて取り組みたい。

一行目 話の始まり。伝えておくべき状況や前提を示す。(起)

二行目 「起」を受けて話を進める。(承)

三行目 視点を変えて興味を引く。物語の転機、核となる部分。(転)

四行目 気持ちを表す言葉を入れて文をまとめる。(結)

このように形を決めることで、四つの文でまとまりのある文章を作ることから初め、子どもたちの表現意欲を高めたい。書き方に慣れれば、一文で書いた各行を増やしたり、三行目は、可能な児童は、「しかし・けれども」と逆説の接続詞を入れたりしていきたい。また、四行目は「うれしい」とか「楽しい」という言葉を使うことに慣れた子どもたちの意識を変えたい。

これまで子どもたちは、同じメンバーで5年間を過ごしてきた。友だちの得意なことや不得意なことがわかっていたり、楽しいことやうれしいことを話したりできる関係はできている。子どもたちは、自分や友だちを知ることの大切さ、本音を言い合うことの大切さを実感しているものの、友だちの悲しいことや悩んでいること、言いたいと思っても言えないことなど、心の奥にあるものを伝えることができていない。お互いの事を分かったつもり、知ったつもりになっていることもある。

四行作文を通して、「作文が好き。」と言い出すような、子どもたちにさせていきたい。また、自分を知ること、友だちを知ること、今までの自分たちをふりかえり、自分たちを見つめ直すきっかけにしたい。

(3) 指導について

第一時では、起承転結について理解できていない児童もいるため、四コマ漫画から、四行作文を作ること、起承転結を意識させたい。

第二時では、「担任の先生」、「ワールドカップ」について四行作文を作ること、書くことの楽しさを感じさせたい。また、自分の考えをまとめられるようにさせたい。

第三時では、「最近、とてつもなく、うれしかったこと」について四行作文を作り、自分と比べて聞き、自分と重ねた感想が言えるようにさせたい。また、自分のことについて考えるきっかけにさせたい。

担任がAのことについて、以下のような四行作文を書いてみた。

- ①授業で、がんばろうとしていても、分からないことがあります。
- ②分からなくても、なかなか自分から、みんなに聞けません。
- ③でも、教えに来てくれる友だちがいます。
- ④自分から、教えてと言えるようになりたいです。

Aには、分からない時や、困った時に、友だちに相談できるようになってほしい。中学校や、社会に出た時、分からないことを自分から聞けるのが、Aには大切であるとする。

クラスの児童には、自分のしんどい気持ちや、悩んでいることを出し合える関係になってほしい。そのために、Jの日記に書かれていたように、相手の話を真剣に聞き、本音で自分の意見を言える空気をつくらせたい。そして、相手のことが、自分のこととして考えられるようにさせたい。

自分の生活の中で、「クラスみんなが知らない、自分の悩みや、しんどい気持ち」を四行作文で書かせたいが、今はまだ出せる段階ではない。そこで、第四時、第五時では、「最近、自分が一番困っていること」について四行作文を作り伝え合うことで、Aには、困っていることを友だち聞いてもらう良さを感じさせたい。また、クラスの児童には、Aの困っていることを、自分と重ねて聞くことができるようにさせたい。

教科の授業のふり返りでは、「～が分かった」「～と思った」というように一文でまとめたり、「すごい」「面白い」「楽しい」など抽象的な言葉でまとめていたりする児童が多い。そこで、四行作文を以下のように、教科の授業のふり返りにも生かしていく。

一行目 今日の授業で学んだこと

二行目 自分が一番考えたこと

三行目 友だちの発言の良かったところ

四行目 授業で成長したこと、次に学びたいこと

四行目は、「気持ちを表す言葉を入れて文をまとめる」を意識させることで、語彙を増やす契機にしたい。「次の目標がきまり満足です。」「感動と言う言葉では、気持ちが言い足りません。」というように、自分の言葉を見つめられるようにさせたい。また、起承転結を意識して、三行目に「しかし・けれども」という逆説の接続詞を使うことを約束に入れることで、考えて文章をつくり、言葉を選ぶことを意識させたい。

四行作文を通して、児童が作文を好きになり、書く・話す力を伸ばしたい。四行作文を書くことで、自分の考えをもち、考えをまとめ、話すことで自分を表現できるようにしたい。そして、普段の作文や、スピーチへつなげていきたい。

4 指導計画（全5時間）

第1次（3時間）

- (1) 四コマ漫画から、起承転結を意識した四行作文を作り、伝え合う。…………… 1時間
- (2) 「担任の先生」、「ワールドカップ」について四行作文を作り、伝え合う。…………… 1時間
- (3) 「最近、とてつもなく、うれしかったこと」について四行作文を作り、伝え合う。…………… 1時間

第2次（2時間）

- (1) 最近、自分が一番困っていることについて、四行作文を作る。…………… 1時間
- (2) 最近、自分が一番困っていることについて、四行作文を伝え合う。…………… 1時間（本時）

5 本時の指導

(1) 目標

- 四行作文を通して、自分と重ねて感想を伝えたり、質問をしたりすることで、思いを伝え合うことができる。「こんなことに困っている」という思いを、素直に伝えることができる。また、「聞いてもらって良かった」という思いをもつことができる。(A)

主な学習活動	◎主発問・予想される児童の反応	教師の手立て・対応
1 めあての確認をする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> めあて 自分と重ねて考え、思いを伝え合おう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と重ねて感想を伝えたり、質問をしたりすることを確認する。
2 四行作文で書いた内容の確認をする。	◎最近、自分が一番困っていること、について書いた四行作文を伝えます。	<ul style="list-style-type: none"> ・1人目、2人目で、発表する流れをつかませた上で、Aの四行作文を発表させる。(3人目か4人目に発表させる。)
3 四行作文を伝え合う。	○四行作文を読んで、どんな思いで作ったかを伝えます。	<ul style="list-style-type: none"> ・Aが思いを素直に伝えられるように、事前に四行作文の横に、Aの思いも書かせておく。
4 質問や感想を伝える。	○他の人の四行作文を聞いて、質問や思ったことを伝えます。	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてを意識させる。
5 学習をふりかえる。	○今日の発表を聞いて、考えたこと、思ったことなど、ふりかえりをします。	<ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえりを書くための用紙を用意しておく。

6 参観の視点

Aが、素直に「こんなことに困っている」という思いを伝えることができるか。それに対して、クラスの児童は、自分と重ねて考えることができているか。クラスの児童の困っていることに対して、Aは、内容をとらえて、質問や思ったことを伝えることができるか。ふりかえりで、Aが自分の困っていることについて、「聞いてもらって良かった」という思いをもつことができたか。

7 授業後の考察

本時では、「最近、自分が一番困っていること」について作った四行作文を、お互いに伝え合った。Aは、「みんなと話がしたい」「思っていることが上手く伝えられず、話が続かない」「話が続くように、一生懸命考えている」という思いを、素直に伝えることができた。しかし、Aが小聲で話し、声が聞き取りづらかったため、クラスの児童は、身を乗り出してAの思いを聞いていた。人の話を聴くことが課題であった子どもたちが、Aの発言に耳を傾けて思いを受け止めていた。また、Aが、「信頼度0%やから。」と言ったことに対して、Fをはじめに

クラスの児童が、「そんなことないよ。」と言う姿が見られた。そして、Aが自分の四行作文を伝え、それに対してクラスの児童が思いを返した後、Aが泣いてしまう場面があった。その時、理由が分からなかったので授業後に理由を聞くと、Aは、「みんなのアドバイスに感動した。」と話していた。本時の目標である、「聞いてもらって良かった」という思いをAはもつことができた。この授業を通して、自分を知ることや、友だちを知ること、今までの自分たちをふりかえり、自分たちを見つめ直すことができた。

授業後の反省で、下記のようなことが話し合われた。

- ・ Aは、自分なりの表現の仕方、思いを返すことができていた。
- ・ 聞きたい、知りたいからこそ、クラスの児童が身を乗り出して聞くことができたのではないかな。
- ・ もう少し、Aやまわりにつけたい力を明確に書いた方が良さそう。
- ・ 参観の視点は、Aだけでなく、クラスみんなの視点についても書く。
- ・ 思いを重ねるのは、自分事としてとらえることができていない場面があった。
- ・ こういうことを深めたい、というものを教師がもっておく必要がある。また、深めるためには、もっと子どもの生活を知っておかなければいけない。
- ・ 主導権は教師がもち、ここぞという時には、教師が意図的に当てて、思いを言わせることも必要。
- ・ 授業の最後を、先生がまとめていたので、子どもたちの言葉でまとめた方が良さそう。